

animal welfare sanctuary, how can you refuse our dog? What unfair criticism! It's true we run a sanctuary and are now caring for 300 dogs and cats but it is our responsibility first, to give each of these animals the proper care and attention they need. We can only work within the limits of our resources; space, manpower, time and money. If we exceed these limits, we become another hell-hole. We are not a government agency supported by taxes, nor do we receive any Government subsidies. Our support comes entirely from the goodwill and generosity of ordinary people who love animals and want to do something to help them.

Refusal hurts, especially when the animal is in front of you. But it is the selfishness of owners like this which cause animal suffering. They think primarily of themselves, of their convenience and their pet is an afterthought. Would they

treat their children in the same way? Of course peoples' circumstances change, especially in the current recession but there is always a solution if one tries hard enough. The couple in question had several options; the husband could have taken the dog to the States with him (it is easy and cheap to fly a pet to the US), the wife could have searched for an apartment where a dog was allowed, (despite prevailing views that there are no such apartments, there are often older apartments or



houses to be rented cheaply where pets are OK, one just has to search hard enough.) If these types of owners were genuine animal lovers they would consider their pet's well-being as much as their family's. However miserable their circumstances became, they would keep their pet with them.

"We rented a car specially to come here," the couple with the Husky kept repeating, as if this was an added reason we should accept their dog. "Since you won't take him, we'll just have to throw him away," was their parting shot. We don't know how they solved their problem but if they did decide to callously abandon him, the possibility is that he would end up once more where he originally came from, the hokensho. But for them, out of sight, out of mind.

OUT OF SIGHT OUT OF MIND

第2回「動物保護法」を考えるシンポジウム in 関西 ——「動物の保護及び管理に関する法律」の改正を求めて

動物保護法を考えるシンポジウム(関西アニマルネットワーク主催、10月25日大阪にて)が開催されました。パネラーには、同志社大学教授・吉田真澄氏、ペット研究会瓦主宰・山崎恵子氏、フリーライター・島崎今日子氏が招かれました。今回のシンポジウムでは、動物保護改定事項案の紹介とパネラーのお話、動物救済の現状などがスライドを交えて詳しく説明されました。会場は定員200名を上回る幅広い年齢層の参加者で一杯になり大盛況でした。

動物保護法改定事項案について

- 1 動物及び動物虐待・遺棄の定義を明確にする
- 2 罰則の強化
- 3 動物虐待の調査、監視及び適切な指導のための査察制度を設ける
- 4 動物取扱業を許可制にする
- 5 動物実験を許可制にし、民間人を含めた動物実験倫理委員会及び査察制度を設ける



動物と子供の関係

—アメリカで行われた調査について。生活環境が同等である児童600名を選び、動物を家庭で飼育している群としていない群に分けての調査結果が紹介されました。全調査には8年の歳月が費やされているそうです。対象者全員に期間限定で、1~2週間のライフイベント(日記のようなもので、日常で起きたことなど)を記入してもらいました。結果としては、両群ともにライフイベントの内容はほぼ同じではありましたが、飼育群の方が記入頻度は多いということでした。特に動物のことを書いているというわけではなく、動物と共に暮らすことで感受性が養われ、日常生活で感じる事柄が多いのではないかと思われるということでした。

—ドイツで行われた調査 ドイツでは国民全世帯の8割が大を飼っているというくらい、生活の中に大が家族として迎えられている様子が伺えますが、その中の300世帯へ犬の役割についてのアンケートが行われました。親の9割は大は「子供の教育者である」と言い、子供の社会的行動の発達に大きく関わっていると答えています。また反面、大にかかる時間とお金は大変だし、時間の拘束はあると意見も3割ほどありました。また、子供の意見は、8割が大は友達であり、73%が相談相手またはなぐさめ役と答えていました。調査を通して見られることは、動物と育った子供の方が非言語的交流(ボディランゲージ)にたけているようであったことです。それでは、日本においてはどうか?

日本は住宅事情が大きな問題で動物飼育ができない家庭が多いのが現状です。よって動物との交流もおおのずと少なくなります。現在の学校教育において、一番の問題である「いじめ」についても、非言語的交流が乏しいがために、「やめて」というボディランゲージが発信できずに相手のされるがままになり、周りが気がついた時には、すでに自殺へ追い込まれてしまうという状況になることも少なくありません。

動物が子供の発達にどれだけ役に立つかは、単に動物を飼育するだけでなく、まわりの大人たちの対動物感により大きく左右されることが多いのです。

動物虐待について

残念なことには、日本では、まだ動物虐待を通過儀礼的にしか見ることができず、点と点を線で結ぶことのできない社会に大きな問題があると思われる。小児精神障害と判断する上での行為障害13項目には動物虐待が含まれており、社会全体が動物虐待を警戒の目で見ることが問われている時です。アメリカにおける調査でも、虐待された子供の8割の家庭では動物虐待が行われていますし、またFBIのある捜査官は「動物虐待は単なる無害な感情の暴発ではない」と強く訴えており、現在アメリカで服役中の8割は動物虐待の経歴があるとのデータを示しました。